

なぜ森永製菓がおくちケアを？

「食べること」は私たちの健康にとって、とても大事なことです。

そして「食べること」をいつまでも続けるためには

「自分の歯を残す」ことが大切です。

おくちに寄り添ってきた森永製菓だからこそ、

おくちの健康を真剣に考え始めました。



はにぐー開発に込めた思い

近年、お子さまの「おくちぼかん」などの課題が顕在化しています。

おくちを鍛えるためのトレーニングはあるものの、継続が難しいとの声も。

そのような課題に対し、森永製菓ができることはないだろうか？と考え、ノンシュガーでありながら、お子さまが進んで食べたくなるようなおいしさと、

しっかりとした噛み応えにこだわったソフトキャンディをつくりました。

毎日の生活の中で、おいしく、たのしく、自然と噛む習慣を身につけてほしい。

そのような想いを込めてこの製品を開発しました。



▼フジテレビ系 LiveNews イット! 内コーナー【あすがよくなりますように「アスヨク!」】で当社の取り組みが紹介されました。



硬性チューイングキャンディの継続的喫食により

小児の舌圧を向上させる可能性を示唆

～鶴見大学歯学部と共同研究、第63回日本小児歯科学会大会で発表～

研究手法

健康な児童男女 29 名を対象に、約 3g の硬性チューイングキャンディを被験食品として、食事後（朝・昼・夕食後のいずれか）に 1 日 1 回 1 粒を 4 週間喫食する試験を行いました。喫食期間の開始前と終了後に、口腔機能検査および保護者へのアンケートを実施しました。本研究では、口腔機能検査項目として、「口唇閉鎖力」「舌圧」「咬合力」を測定しました。

対象：6～12歳の男女児童29名



- ✓ 口腔機能検査
- ✓ 保護者アンケート



硬性チューイングキャンディを
1日1粒を4週間食べる



- ✓ 口腔機能検査
- ✓ 保護者アンケート

測定項目

- ・口唇閉鎖力
- ・舌圧
- ・咬合力

結果① 対象児童の舌圧が有意に向上

対象の児童において試験後に「舌圧」が有意に高くなることが確認されました。[1]

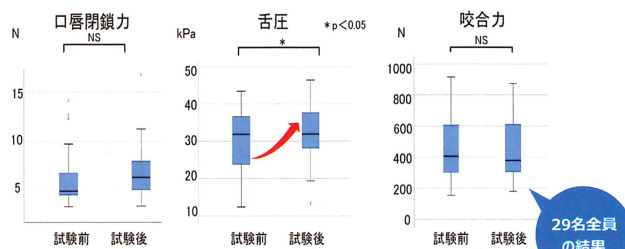


図1 喫食試験前後の口腔機能検査 (n=29)

舌圧の向上を確認

…口の中で転がすときに舌を自然に使っていること、飲み込むときに舌を使っていることが関わっていると考察しています。



硬性チューイングキャンディがお子さまの嚥下能力や発話能力に寄与できる可能性あり

結果② 口腔機能が未発達な児童の口唇閉鎖力および舌圧が有意に向上

対象の児童の試験前の「口唇閉鎖力」を、『口腔機能発達不全症に関する基本的な考え方』[2]に示された平均値に対して、平均値未満だった群では、試験後に「口唇閉鎖力」と「舌圧」が有意に高くなることが確認されました。[1]

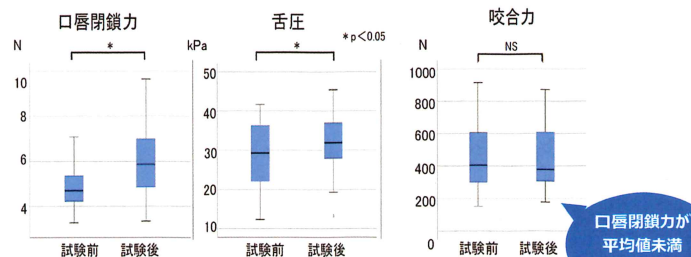


図2 口唇閉鎖力が平均値未満の群における喫食試験前後の口腔機能検査 (n=23)

口唇閉鎖力の向上を確認

…口をしっかり閉じて唇の力を使う必要があり、かつチューイング性があるため、唇を閉じる筋肉が自然と鍛えられると考察しています。



硬性チューイングキャンディがお子さまのお口ほかの解消につながる可能性あり

結果③ 保護者向けアンケート

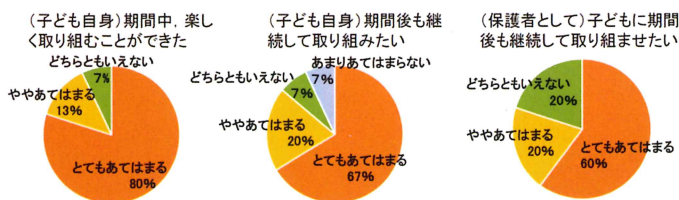


図3 保護者アンケートの結果 (n=29)



子どもたちは試験期間中、積極的に、義務感なく、楽しく取り組むことができました。子ども・保護者ともに、継続して取り組む意思があることが確認できました。[1]

ノンシュガーのチューイングキャンディであっても
お子さまがおいしく、楽しく続けられる

<鶴見大学歯学部 朝田 芳信 教授コメント>



最近、子どもの口腔機能の育成について関心が高まっています。その背景には、保護者による子どもの食に対する心配事が増加していることや2018年に口腔機能発達不全症という新たな病名が誕生し、歯科からの支援の在り方がより明確になったことが挙げられます。噛むことの大切さや小児期からの発達支援の大事さが注目される中、今回の研究では可能な限り日常生活の中で楽しく持続的に支援できる食品としてソフトキャンディに注目しました。ソフトキャンディ基材に注目した理由は、咀嚼機能だけでなく嚥下機能の発達に対する効果が期待できるという点です。適度な付着性や凝集性を兼ね備えたソフトキャンディのメリットを最大限に生かした製品開発になっていると思います。

[1] 仲村英美, 小林冴子, 菱沼伽名, 大川由加, 陸田愛実, 川崎朋子, 青山到, 樵田侑奈, 朝田芳信: ソフトキャンディの咀嚼運動が小児の口腔機能に与える影響について, 第63回日本小児歯科学会大会, 2025年5月29・30日

[2] 日本歯科医学学会: 口腔機能発達不全症に関する基本的な考え方, 令和6年3月